

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500352		
法人名	株式会社ヒトタ商事		
事業所名	グループホームあてるい		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字石橋7番地		
自己評価作成日	令和4年12月21日	評価結果市町村受理日	令和5年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様7名、職員8名のうち、7月後半に職員1名、10月の後半に入居者様2名、職員3名のコロナ陽性者が出てしまいましたが、少ない人数の中、職員が協力して、「マスクの着用」「手洗いうがい」「手指の消毒」「換気」等に気を配り、感染を防ぐ事が出来ました。健康で穏やかに皆様が安心して一人一人暮らしていける様、そして満足して頂けるサービス、体制に努めております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、近隣には大型スーパーやドラッグストア、コンビニ店舗等が立地する利便性に恵まれた環境の中にある。すぐ隣接して同法人の有料老人ホームがあり、合同で避難訓練を実施するなどして協力関係を築いている。また、協力医療機関からの月2回の訪問診療や週1回の訪問看護サービスを利用して、医療面での連携体制も良好に保たれている。コロナ禍で外出機会が制限される中においても、ワゴン車を利用しての花見や紅葉見物、近所のスーパーや公園などへの散歩等を積極的に行うなど、利用者の外出の希望に応えた支援を行っている。職員が知恵を出し合い、工夫を重ねながら、利用者の笑顔につながるサービスの提供に取り組んでいる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を朝のミーティングや、会議等に行っている。職員が同じ目標に向かい支援するよう心掛けている。	開設当初に定めた理念について、昨年6月全職員が参加して見直し作業を行い、「心を込めた親切なサービスに努めます」の一文を加えている。新たな理念は、ホール内に掲示しているほか、毎朝のミーティングの際や職員会議においても唱和・確認しあい、浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため、直接的な交流を控えている。	コロナ禍の中で、積極的な地域との交流活動はできない状況が続いているが、自治会に加入しており、市の広報紙の配布を受けるほか、事業所の広報紙「あて類通信」を町内回覧していただいている。散歩や外気浴などで外に出た際には、行き交う人たちと挨拶を交わすなど、さりげない交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で奥州市にクラスターが発生しているため、交流が図れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度もコロナ禍の上、奥州市の高齢者施設にてクラスターが発生したこともあり、開催を控えている。	コロナ禍のためになかなか集合しての開催ができず、書面開催が続いているが、意見等をいただくための書類を返信用封筒を添えて送付している。委員には、行政区長や2名の民生委員、市役所職員や家族などに依頼しておりバランス良い構成となっている。	書面開催であっても、一層委員が意見や質問を出しやすくするため、伺いたい項目を定め、項目ごとに記入しやすくするための工夫により、運営推進会議が更に活性化されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から当法人の運営や活動についてご鞭撻をいただいている。	運営推進会議には市の職員が委員となっており、毎回の会議資料を送付、手交する際にはいつもコメントをいただくなど、緊密な連携が図られている。また、介護相談員の来訪を受けたり、地域包括支援センターとは入退所の相談や情報交換等を通して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関扉の施錠はしていない。スピーチロック等に気を付けながら入居者様と接している。	「身体拘束はない」を基本にしてケアに当たっている。適正化委員会は、管理者を含む3名の職員で3ヵ月毎に開催している。職員研修も年2回程行っている。特に、スピーチロックについては、気づいた際にはその都度注意しているが、なかなか改善できていない状態にあり、課題の一つとなっている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。ベッドセンサーの利用者はいない。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者はテレビニュース等、虐待に近いニュースなどを職場で開示したり、職員とともに考えたりしている。行き過ぎた声かけ等に対しては、発見した場合は、その都度注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要性があると思われる方はいないが、研修のテーマとして、検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約書・重要事項説明書を提示し、パンフレット、料金表等も活用している。ご家族様等に疑問点などあれば説明している。十分に説明し、ご理解・ご了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活から伺える希望を取り入れ、個別に対応する体制にある。	利用者の大半は要望を言葉で話せる状況にあり、食べたいものやレクリエーションの希望などが多く出されており、出来る限り対応するようにしている。ご家族とは、コロナ禍もあって、玄関での面会の際などにお話を伺うようにしている。広報誌の「あてるい通信」には担当職員の一言を添えて送付し、好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、不定期開催の職員会議のほか、日常的に意見や提案を聞く期間を設けている。	朝のミーティングや職員会議で職員からは様々な意見が出されている。休憩時間に関する時間調整の改善や日曜日の過ごし方の改善策など、日々のケアに活かされた例も多い。職員との個人面談に関しては、運営法人との面談機会もなく今後の課題となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めて頂いていると思う。		

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修がコロナ禍で中止となるケースが多い。内部研修や、講師を招いての研修等は避けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で勉強会等は見合わせている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ要望に沿ったケアプランを作成し、安心して入居頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係を築くため、丁寧な対応をするなど、心掛けて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の居宅ケアマネや、サービス利用時に訪問・情報を得てご本人の意向に沿ったケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事等の際は職員は同じテーブルに座り、一緒に食事をしている。また、テーブルふきなど、職員と一緒に作業することで、連帯感も生まれつつある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なご家族様への情報伝達は行っている。ご家族様の意向に関しても耳を傾け、良い関係に努めている。		

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ対策で、本年度も面会制限をしている。	コロナ禍もあり、友人や知人の来訪はなく、家族とも玄関での面会が続いている。理美容については数ヶ月毎に訪問理容師が来訪しており、新たな馴染みとして利用者も楽しみにしている。また通院の際に付添いの家族と外食を楽しむ方もいるほか、実家に行ってみたいという方には、その都度対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の助け合いも生まれ、協力し合う姿がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応させていただいている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様等と連携しながら、本人の思いをかなえられるよう努力している。	多くの利用者は言葉で思いや意向を伝えることができ、「食べたいもの」や「家に帰りたい」、「外出したい」などが多くなっている。「私の姿と気持ちシート」を活用して、各利用者の思いや希望を分かりやすくまとめている。職員は、新たな思いや希望を聞き出したら、シートに加えて情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用当初に聞き取りをしてから、関わる方々も同一人が多く、新しい情報が聞き取れない現状がある。ご本人のペースを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌を活用しながら、変化に柔軟な対応をしている。		

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、短期目標期間の3ヵ月毎に見直しを行っている。モニタリングは担当職員を中心に全職員が参加している。	モニタリングはモニタリングシートを活用して3ヵ月ごとにケアマネと担当職員が行い、介護計画はモニタリングを基にケアマネが中心となって基本3ヵ月毎の見直しを行っている。職員カンファレンスを経た後で家族の同意・承諾を得ている。利用開始時は暫定としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子を介護記録・個別ケース記録・業務日誌を用いて記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のミーティングでの申し送りや、業務日誌、個々のケース記録等でモニタリングし現状の把握に努めている。また、日頃の日常会話やご家族様の意向を傾聴している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も新型コロナの影響で面会等制限している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関があり、月2回訪問診療に来ていただいている。入居前からのかかりつけ医が良い方は、ご家族様対応にて受診している。	利用者3名は市内にあるかかりつけ医に継続して受診しており、主に家族が通院に付き添っている。他の利用者は協力医療病院の月2回の訪問診療を利用している。看護業務は訪問看護ステーションを利用しており、週1回の訪問看護と24時間対応サービスを受けている。薬剤は薬局から届けてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回(毎週木曜日)の訪問看護があり、健康管理、相談を継続、適宜指導を受けている。		

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には、ご家族様、医療機関と連絡を密にして、利用者様の情報を共有している。状態を把握しながら、今後についての検討を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に当事業所は看取りが出来ないことを説明し、ご家族様にはご理解を頂いている。終末期や、介護度3以上になった場合は、ご家族、かかりつけ医と話し合い、近くの特養施設などへの申し込みを支援。	事業所では、現在、看取り対応はしていない。入居に際し、この点も利用者家族等に説明し了解を得ている。重度化してホームでのケアが難しくなった場合には、近隣の特養等への施設変更の支援を行っている。将来的な看取りの検討に向けた研修を行う必要性は感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、連携先の医療機関・訪問看護の指示のもと対応。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で、立ち合い訓練は実施していない。事業所のみで訓練を実施。	火災を想定した避難訓練は隣接の有料老人ホームと合同で年2回実施し、そのうち1回は10月の夕方の薄暮時に暗さを体感しての実践的な訓練としている。ハザードマップで浸水想定地域となっており、避難先は隣接の老人ホームの2階が適切であると判断している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には苗字か名前に「さん付け」「様付け」で声がけするよう心掛けてはいる。トイレなどで失敗した際には、羞恥心に配慮した介助を心掛けている。	利用者の経験と尊厳に配慮して「さん」付けで話しかけている。職員が知らない事柄を利用者が教えてくれることも多くあり、利用者に感謝を伝えるようにしている。プライバシーの確保も常に意識しており、トイレ誘導の際には、周りの人に気付かれぬよう小声で優しく声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に希望や願いを聞く体制になっている。入居者様の自己決定を優先するよう心掛けている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設生活の中で、入居者様個々の生活リズムを考慮し、マイペースに生活できるよう、柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り服を自分で選んでもらっている。出来ない方に関しては、こちらからお手伝いをしている。散髪希望をお伺いし、訪問理容日に散髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	表面的な感動等は少なく、控えめではあるが、季節感満載の食事は楽しみとなっている。普段の食事に関してはほぼ職員が準備・提供している。テーブル拭き、片付け等、入居者様ができることを職員と一緒にやっている。	献立作成と調理は職員が交替で担当している。献立は利用者の好みをなるべく反映するようにしている。有料老人ホームの栄養士のアドバイスも受けている。利用者は食材の下ごしらえや盛り付け、テーブル拭きなどを手伝っている。恒例の焼き芋会は蒸かし芋会に変更となったが、利用者は楽しんで取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量や水分量をチェックしている。また、一人一人の状態に合わせた量を提供している。水分摂取が少ない方もいるため、工夫しながら声がけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操、毎食後には職員の見守りで口腔ケアを行なって頂いている。介助を要する方には、一部介助、全介助も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意等ない方は定時のトイレ誘導、声がけ、見守り等を行っている。布パンツから紙パンツに変更するなどその方の状態に合わせて対応。	排泄チェック表を活用した声掛けでトイレ誘導を行っている。現在は2名が布パンツで自立しており、他はリハビリパンツの使用となっている。夜間も全員がトイレを利用している。失禁した場合には、優しく声掛けをしながら、素早く手際よい対応処理を行い、気持ちが落ち込まないよう心配りしている。	

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を記入して個々の排尿・排便状況の把握に努めている。水分補給や、朝食には牛乳、昼食にはヨーグルトを提供。また、下剤の調整により、定期的な排便に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安として、午後(行事等予定されている場合は午前中に)入浴している。個々の希望に合わせ、臨機応変に支援している。	週3回午後の時間での入浴を基本としており、全員が一般浴槽を使用している。入浴拒否の方もたまにあるが、声掛けを工夫するなどして対応している。入浴時は職員と1対1となる貴重な時間であり、会話も弾み楽しい時間となっている。菖蒲湯やゆず湯などを取り入れ季節を感じる取り組みも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせ、居室に戻り休息していただいている。また、日中に傾眠されている時等は声掛けをし、誘導することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の医師や、訪問看護・薬局の薬剤師の指導のもと職員間で薬情を情報共有し、周知している。服薬は、薬箱を用意、ケースに収納し、服薬したか職員がチェック出来る体制にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、おしぼり作りなど入居者様それぞれに役割をもっていただき生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、奥州市にクラスターが発生しているため、戸外の外出は控えています。レクや、天気の良い日は日光浴等しています。	コロナ禍以前のような外出機会の確保は難しいが、それでもワゴン車を利用して近場でのお花見や紅葉見物のドライブに出かけており、利用者はストレスを解消して楽しんでいる。天候と相談しながら近くの公園や近所のドラッグストア、スーパーに買い物を兼ねて散歩に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から預かり、ホームが預かり金として管理している。レシートチェック等もしっかり記録等まとめている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は来ても誰からかわからず、捨てようとしたりする方もいる。本人様から家族様に対して、電話の訴えがある場合は、時間帯を考慮して会話できるよう支援。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の写真や、壁には季節ごとのディスプレイをし、入居者様やご家族等にご覧いただき、雰囲気造りに繋げている。	食堂を兼ねたホールには、3つのテーブルとソファが1つ配置され、室温はエアコンで適温に保たれている。3月を迎える季節柄、お雛飾りが置かれ華やいだ明るい雰囲気となっている。壁には、百歳祝いの際の記念写真や貼絵作品等が飾られている。ホールでは輪投げや風船バレー等のレクリエーションも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々の入居者様の気持ちを配慮し、ソファや、畳椅子に移動したり、シーンに対応した居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室での滞在時間にも差が生じているが、大方は寝る部屋のイメージが濃いよううかがえる。使い慣れた家具や日用品、思い出の品などご家族に確認し、配慮している。	居室には、ベッドやクローゼット、洗面台が備え付けられ、室内はエアコンで適温に調整されている。利用者はそれぞれに整理タンスや衣装ケース、愛読書、テレビなどを持ち込まれており、カレンダーや家族写真、貼絵作品などを壁面に飾って居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の安全・安心が守られるよう配慮しながら、制限のない暮らしが満足につながるよう支援。		